

臨床医学各論 整形外科疾患 キーワード：五十肩

はき 4-85 疾患と神経ブロックとの組合せで正しいのはどれか。

1. 後頭神経痛 — 硬膜外ブロック
2. 坐骨神経痛 — 星状神経節ブロック
3. 三叉神経痛 — 顔面神経ブロック
4. 五十肩 — 肩甲上神経ブロック

はき 1-80 正しい組合せはどれか。

1. 筋緊張性頭痛 — 顔面神経ブロック
2. 三叉神経第2枝神経痛 — 下顎神経ブロック
3. 三叉神経第1枝帯状疱疹 — 星状神経節ブロック
4. 五十肩 — 肋間神経ブロック

臨床医学各論 整形外科疾患 キーワード：変形性関節症

はき 24-61 変形性関節症のエックス線所見でないのはどれか。

1. 関節裂隙の狭小化
2. 骨棘の形成
3. 骨嚢胞の形成
4. 骨萎縮

はき 22-68 関節疾患について正しいのはどれか。

1. 関節拘縮の原因は関節包内の骨・軟骨にある。
2. 変形性関節症は退行変性である。
3. 関節リウマチの原因は細菌である。
4. 関節強直の原因は関節包外の軟部組織にある。

はき 16-70 ヘバーデン結節について誤っているのはどれか。

1. 女性に多い。
2. 近位指節間関節に生じる。
3. 変形性関節症である。
4. 初期には軽度発赤・熱感を伴う。

はき 14-73 変形性関節症について誤っているのはどれか。

1. 関節の退行性変化である。
2. 荷重関節に好発する。
3. 運動開始時の痛みが特徴的である。
4. 関節強直を起こしやすい。

はき 10-81 二次性変形性関節症の原因とならないのはどれか。

1. ペルテス病
2. 先天性股関節脱臼
3. 重症筋無力症
4. 血友病

はき 8-73 尿酸の代謝障害が原因となる急性関節炎はどれか。

1. 慢性関節リウマチ
2. 痛風
3. 変形性関節症
4. 乾癬性関節炎

はき 8-78 変形性関節症でヘバーデン結節のみられる関節はどれか。

1. 指関節
2. 肩関節
3. 股関節
4. 膝関節

はき 6-82 変形性関節症について誤っている記述はどれか。

1. 成人の半数以上にみられる。
2. 膝関節に好発する。
3. 運動開始時の痛みが特徴的である。
4. 強直を起ししやすい。

はき 4-83 疾患と症状との組合せで正しいのはどれか。

1. 変形性関節症 — 安静時痛
2. 坐骨神経痛 — 腱反射亢進
3. 脊柱管狭窄症 — 間欠性跛行
4. 胸髄損傷 — 四肢麻痺

臨床医学各論	整形外科疾患	キーワード：変形性股関節症
--------	--------	---------------

はき 26-56 変形性股関節症の原因とならないのはどれか。

1. ペルテス病
2. 単純性股関節炎
3. 外傷性股関節脱臼
4. 大腿骨頭すべり症

はき 13-73 15歳の肥満男子。軽微な外傷後跛行を主訴として来院した。最も考えられるのはどれか。

1. ペルテス病
2. 変形性股関節症
3. 結核性股関節炎

4. 大腿骨頭すべり症

臨床医学各論	整形外科疾患	キーワード：変形性膝関節症
--------	--------	---------------

はき 28-77 「83歳の女性、昨夜から左膝痛と38°Cの発熱が出現した。左膝関節に熱感、腫脹および膝蓋跳動を認める。関節液の偏光顕微鏡観察で異常を認めた。」最も可能性の高い疾患はどれか。

1. 化膿性関節炎
2. 関節リウマチ
3. 偽痛風
4. 変形性膝関節症

はき 22-60 徴候と疾患との組合せで正しいのはどれか。

1. ティネル徴候陽性 ————— 総腓骨神経麻痺
2. ペインフルアーク徴候陽性 —— 胸郭出口症候群
3. トレンデレンブルグ徴候陽性 —— 腰椎椎間板ヘルニア
4. アリス徴候陽性 ————— 変形性膝関節症

臨床医学各論	整形外科疾患	キーワード：ヘバーデン結節
--------	--------	---------------

はき 24-76 「48歳の女性。2年前、左手のこわばりがみられ、その後、近位指節間関節から始まる左指の関節痛と腫れが生じ、さらに右指の関節も痛みだした。現在では、両側の手・膝関節にも関節炎がみられる。光過敏や嚥下障害はない。」本疾患でよくみられるのはどれか。

1. ハンマー指
2. ヘバーデン結節
3. Z型変形
4. ブシャール結節

はき 16-70 ヘバーデン結節について誤っているのはどれか。

1. 女性に多い。
2. 近位指節間関節に生じる。
3. 変形性関節症である。
4. 初期には軽度発赤・熱感を伴う。

はき 8-78 変形性関節症でヘバーデン結節のみられる関節はどれか。

1. 指関節
2. 肩関節
3. 股関節
4. 膝関節

はき 24-76 「48歳の女性。2年前、左手のこわばりがみられ、その後、近位指節間関節から始まる左指の関節痛と腫れが生じ、さらに右指の関節も痛みだした。現在では、両側の手・膝関節にも関節炎がみられる。光過敏や嚥下障害はない。」本疾患でよくみられるのはどれか。

1. ハンマー指
2. ヘバーデン結節
3. Z型変形
4. ブシャール結節

はき 27-57 骨粗鬆症における骨折危険因子でないのはどれか。

1. 運動
2. 喫煙
3. 糖尿病
4. 副腎皮質ステロイド薬

はき 25-59 骨粗鬆症患者に好発する骨折はどれか。

1. 鎖骨骨幹部骨折
2. 橈骨近位部骨折
3. 大腿骨近位部骨折
4. 脛骨遠位部骨折

はき 24-62 骨粗鬆症の原因でないのはどれか。

1. クッシング症候群
2. コルチコステロイドの投与
3. ビタミンA欠乏
4. 閉経

はき 23-61 骨疾患と病態の組合せで正しいのはどれか。

1. くる病 ————— ビタミンC欠乏
2. 骨軟化症 ————— 類骨の増加
3. 骨粗鬆症 ————— 骨量の増加
4. 多発性骨髄腫 ——— 骨硬化

はき 22-74 骨疾患と好発時期との組合せで正しいのはどれか。

1. くる病 ————— 小児期
2. 骨肉腫 ————— 老年期
3. 転移性骨腫瘍 —— 青年期
4. 骨粗鬆症 ————— 思春期

はき 10-80 疾患とその特徴との組合せで正しいのはどれか。

1. 原発性骨粗鬆症 — アルカリフォスファターゼ値の異常
2. 骨肉腫 — 老人に好発
3. 脊椎カリエス — 脊柱の運動制限
4. 股関節脱臼 — 硬性墜落跛行

はき 6-83 骨粗鬆症について誤っている記述はどれか。

1. 骨の化学的成分は正常である。
2. 骨の絶対量は減少する。
3. 閉経後に生じるのは高回転性である。
4. 甲状腺機能亢進症で見られる。

はき 4-86 骨粗鬆症で正しい記述はどれか。

1. 骨の絶対量が減少する。
2. 脊柱は前弯する。
3. 血清カルシウムは低下する。
4. 骨皮質は厚くなる。

はき 3-82 骨粗鬆症について誤っているものはどれか。

1. 閉経後の女性に発生しやすい。
2. 海綿骨の骨梁が減少する。
3. 腰背部痛の原因となる。
4. 脊椎圧迫骨折があれば手術を行う。

臨床医学各論	整形外科疾患	キーワード：くる病
--------	--------	-----------

はき 23-57 口腔内所見と疾患の組合せで正しいのはどれか。

1. う 歯 ————— 悪性貧血
2. アフタ性口内炎 ————— 潰瘍性大腸炎
3. 舌 炎 ————— くる病
4. 口角炎 ————— ビタミン A 欠乏症

はき 23-61 骨疾患と病態の組合せで正しいのはどれか。

1. くる病 ————— ビタミン C 欠乏
2. 骨軟化症 ————— 類骨の増加
3. 骨粗鬆症 ————— 骨量の増加
4. 多発性骨髄腫 ————— 骨硬化

はき 22-74 骨疾患と好発時期との組合せで正しいのはどれか。

1. くる病 ————— 小児期
2. 骨肉腫 ————— 老年期
3. 転移性骨腫瘍 — 青年期
4. 骨粗鬆症 ————— 思春期

はき 25-68 ビタミンB₁₂欠乏による疾患はどれか

1. 骨軟化症
2. ウェルニッケ脳症
3. 巨赤芽球性貧血
4. 脂漏性皮膚炎

はき 23-61 骨疾患と病態の組合せで正しいのはどれか。

1. くる病 ————— ビタミンC欠乏
2. 骨軟化症 ————— 類骨の増加
3. 骨粗鬆症 ————— 骨量の増加
4. 多発性骨髄腫 ——— 骨硬化

はき 26-55 骨腫瘍で予後が悪いのはどれか。

1. 軟骨肉腫
2. 内軟骨腫
3. 外骨腫
4. 類骨腫

はき 22-74 骨疾患と好発時期との組合せで正しいのはどれか。

1. くる病 ————— 小児期
2. 骨肉腫 ————— 老年期
3. 転移性骨腫瘍 ——— 青年期
4. 骨粗鬆症 ————— 思春期

はき 26-55 骨腫瘍で予後が悪いのはどれか。

1. 軟骨肉腫
2. 内軟骨腫
3. 外骨腫
4. 類骨腫

はき 23-66 骨肉腫の初発症状でよくみられるのはどれか。

1. 発熱
2. 運動時痛
3. 腫脹
4. 間欠跛行

はき 22-74 骨疾患と好発時期との組合せで正しいのはどれか。

1. くる病 ————— 小児期
2. 骨肉腫 ————— 老年期
3. 転移性骨腫瘍 —— 青年期
4. 骨粗鬆症 ————— 思春期

はき 15-67 骨肉腫について誤っている記述はどれか。

1. 骨原性の悪性腫瘍では最も多い。
2. 中年以後の発症が多い。
3. 膝周囲の発症が多い。
4. 疼痛・腫脹・発赤がみられる。

はき 10-80 疾患とその特徴との組合せで正しいのはどれか。

1. 原発性骨粗鬆症 — アルカリフォスファターゼ値の異常
2. 骨肉腫 — 老人に好発
3. 脊椎カリエス — 脊柱の運動制限
4. 股関節脱臼 — 硬性墜落跛行

臨床医学各論	整形外科疾患	キーワード：重症筋無力症
--------	--------	--------------

はき 15-69 重症筋無力症について正しい記述はどれか。

1. 筋の易疲労性を呈する。
2. 男性に多い。
3. 血清クレアチンキナーゼが上昇する。
4. 遺伝性疾患である。

はき 12-86 疾患と病変部位との組合せで誤っているのはどれか。

1. 筋萎縮性側索硬化症 — 脊髄前角
2. ポリオ — 脳幹網様体
3. 重症筋無力症 — 神経筋接合部
4. パーキンソン病 — 中脳黒質

はき 11-68 爆発性発語がみられるのはどれか。

1. 重症筋無力症
2. 筋萎縮性側素硬化症
3. オリーブ橋小脳萎縮症
4. パーキンソン病

はき 10-81 二次性変形性関節症の原因とならないのはどれか。

1. ペルテス病
2. 先天性股関節脱臼
3. 重症筋無力症
4. 血友病

はき 7-87 錐体外路系疾患はどれか。

1. 筋萎縮性側索硬化症
2. 重症筋無力症
3. 舞踏病
4. アルツハイマー病

臨床医学各論

整形外科疾患

キーワード：先天性股関節脱臼

はき 24-64 装具と疾患の組合せで正しいのはどれか。

1. ミルウォーキーブレース ———— 側弯症
2. ポストンブレース ————— 斜 頸
3. デニスブラウン副子 ————— 発育性股関節形成不全(先天性股関節脱臼)
4. リーメンビューゲル装具 ———— 先天性内反足

はき 22-61 装具と疾患との組合せで正しいのはどれか。

1. ポストンブレース ————— 変形性頸椎症
2. リーメンビューゲル装具 ———— 先天性股関節脱臼
3. デニスブラウン副子 ————— 扁平足
4. フォンローゼン装具 ————— ペルテス病

はき21-60 生後3か月検診で右股関節の開排制限を認めた。最も考えられる疾患はどれか。

1. ペルテス病
2. 先天性股関節脱臼
3. 大腿骨頭すべり症
4. 大腿骨頭壊死症

はき 16-71 先天性股関節脱臼について誤っている記述はどれか。

1. 下肢の短縮がみられる。
2. 大腿内側皮膚溝は非対称となる。
3. 屈曲外転時にクリック音が触知される。
4. 幼児期に腰椎後弯を認める。

はき 10-81 二次性変形性関節症の原因とならないのはどれか。

1. ペルテス病
2. 先天性股関節脱臼
3. 重症筋無力症
4. 血友病

はき 9-79 先天性股関節脱臼について誤っている記述はどれか。

1. 女兒に多い。
2. オルトラニー徴候を認める。
3. 大腿内側皮膚溝は非対称となる。
4. 幼児期には腰椎後弯を認める。

はき 7-81 形態異常の組合せで正しいのはどれか。

1. 先天性股関節脱臼 — 処女歩行遅延
2. 先天性内反足 — X脚
3. 生理的内反膝 — O脚
4. 外反母指 — 間欠性跛行

はき 2-79 先天性股関節脱臼について誤っている記述はどれか。

1. 女兒に多い。
2. 開排制限がある。
3. 大腿内側の皮膚溝が非対称となる。
4. 内反足を伴う。

臨床医学各論	整形外科疾患	キーワード：斜頸
--------	--------	----------

はき 24-64 装具と疾患の組合せで正しいのはどれか。

1. ミルウォーキーブレース ———— 側弯症
2. ポストンブレース ———— 斜 頸
3. デニスブラウン副子 ———— 発育性股関節形成不全(先天性股関節脱臼)
4. リーメンビューゲル装具 ———— 先天性内反足

はき21-68 疾患と牽引方法との組合せで正しいのはどれか。

1. 大腿骨骨幹部骨折 ———— 直達牽引
2. 腰椎椎間板ヘルニア ———— スピードトラック牽引
3. 大腿骨頸部骨折 ———— 骨盤牽引
4. 筋性斜頸 ———— 頸椎牽引

臨床医学各論	整形外科疾患	キーワード：側弯症
--------	--------	-----------

はき 24-64 装具と疾患の組合せで正しいのはどれか。

1. ミルウォーキーブレース ———— 側弯症
2. ポストンブレース ———— 斜 頸
3. デニスブラウン副子 ———— 発育性股関節形成不全(先天性股関節脱臼)
4. リーメンビューゲル装具 ———— 先天性内反足

はき 11-72 疾患と症候との組合せで誤っているのはどれか。

1. 脊柱側弯症 — 肋骨隆起
2. 腰椎椎間板ヘルニア — ラセーグ徴候
3. 強直性脊椎炎 — 亀 背
4. 頸椎脱臼骨折 — 四肢麻痺

はき 5-79 骨疾患で血液検査が正常なのはどれか。

1. 脊椎カリエス
2. 脊椎側弯症
3. 上皮小体機能亢進症
4. 多発性骨髄腫

臨床医学各論 整形外科疾患 キーワード：外反母趾

はき 22-76 外反母趾について正しいのはどれか。

1. 凹足に発症することが多い。
2. 足の内在筋の弱化は認めない。
3. 第1中足趾節関節は上方に突出する。
4. バニオンは滑液包の腫脹である。

臨床医学各論 整形外科疾患 キーワード：内反足

はき 24-64 装具と疾患の組合せで正しいのはどれか。

1. ミルウォーキーブレース ———— 側弯症
2. ポストンブレース ———— 斜頸
3. デニスブラウン副子 ———— 発育性股関節形成不全(先天性股関節脱臼)
4. リーメンビューゲル装具 ———— 先天性内反足

はき 16-72 発育期に多いスポーツ障害で適切でないのはどれか。

1. 離断性骨軟骨炎
2. 腰椎分離症
3. 疲労骨折
4. 内反足

はき 7-81 形態異常の組合せで正しいのはどれか。

1. 先天性股関節脱臼 — 処女歩行遅延
2. 先天性内反足 — X脚
3. 生理的内反膝 — O脚
4. 外反母指 — 間欠性跛行

はき 2-79 先天性股関節脱臼について誤っている記述はどれか。

1. 女兒に多い。
2. 開排制限がある。
3. 大腿内側の皮膚溝が非対称となる。
4. 内反足を伴う。

はき 28-59 頸椎椎間板ヘルニアについて正しいのはどれか。

1. 神経根症では上肢に腱反射の亢進を認める。
2. 神経根症では腹壁反射の消失を認める。
3. 脊髄症では下肢に腱反射の減弱を認める。
4. 脊髄症では下肢に病的反射を認める。

はき 27-59 脊椎疾患と所見の組み合わせで正しいのはどれか。

1. 頸椎椎間板ヘルニア ————— 間欠跛行
2. 頸椎後縦靭帯骨化症 ————— 膝蓋腱反射の減弱
3. 腰椎椎間板ヘルニア ————— アキレス腱反射の亢進
4. 腰部脊柱管狭窄症 ————— 会陰部のしびれ

はき 24-77 「28歳の女性。上肢の痛み、だるさ、しびれを訴える。上肢下垂時に症状が増悪する。首が長く、姿勢が悪い。モーレイテスト、アドソンテスト陽性。」最も考えられる疾患はどれか。

1. 変形性頸椎症
2. 頸椎椎間板ヘルニア
3. 頸椎捻挫
4. 胸郭出口症候群

はき 23-63 脊椎・脊髄疾患と身体所見の組合せで正しいのはどれか。

1. 脊髄ショック ————— 痙性麻痺
2. 頸椎捻挫 ————— バレー・リュウ症状
3. L3-L4 椎間板ヘルニア ————— アキレス腱反射の低下
4. 腰部脊柱管狭窄症 ————— 鶏歩

はき 22-60 徴候と疾患との組合せで正しいのはどれか。

1. ティネル徴候陽性 ————— 総腓骨神経麻痺
2. ペインフルアーク徴候陽性 ————— 胸郭出口症候群
3. トレンデレンブルグ徴候陽性 ————— 腰椎椎間板ヘルニア
4. アリス徴候陽性 ————— 変形性膝関節症

はき 21-68 疾患と牽引方法との組合せで正しいのはどれか。

1. 大腿骨骨幹部骨折 ————— 直達牽引
2. 腰椎椎間板ヘルニア ————— スピードトラック牽引
3. 大腿骨頸部骨折 ————— 骨盤牽引
4. 筋性斜頸 ————— 頸椎牽引

はき21-69 L4-L5椎間板ヘルニアについて正しい記述はどれか。

1. 下肢症状は両側性に出現することが多い。
2. 好発年齢は60歳代である。
3. 下肢伸展挙上テストは陽性である。
4. 膝蓋腱反射が減弱する。

はき 13-75 下部腰椎椎間板ヘルニアで認めにくい記述はどれか。

1. 坐骨神経痛を伴う。
2. ギックリ腰ではじまる。
3. 大腿内側の知覚障害を認める。
4. 髄核は後側方に脱出する。

はき 12-82 腰椎椎間板ヘルニアで正しい記述はどれか。

1. 中年以降の男性に好発する。
2. 坐骨神経痛が頻発する。
3. 第3-4腰椎間で最も多い。
4. 知覚障害は出現しない。

はき 11-72 疾患と症候との組合せで誤っているのはどれか。

1. 脊柱側弯症 - 肋骨隆起
2. 腰椎椎間板ヘルニア - ラセーグ徴候
3. 強直性脊椎炎 - 亀背
4. 頸椎脱臼骨折 - 四肢麻痺

はき 8-80 第4-5腰椎椎間板ヘルニアについて正しいのはどれか。

1. ラセーグテスト陰性
2. 膝蓋腱反射正常
3. 下腿後面部の感覚鈍麻
4. 大腿四頭筋萎縮

はき 5-78 第4・5腰椎間椎間板ヘルニアの症状で正しいのはどれか。

1. 膝蓋腱反射消失
2. ラセーグ徴候陽性
3. アキレス腱反射消失
4. 母指底屈力低下

はき 3-83 椎間板ヘルニアについて誤っているのはどれか。

1. 脱出した髄核が神経根を圧迫する。
2. L5-S1間のヘルニアでは大腿四頭筋の筋力が低下する。
3. 単純エックス線写真で椎間腔は狭小化する。
4. 再発を繰り返す患者には手術を行う。

はき 2-80 L5 - S1 椎間板ヘルニアの所見で誤っているのはどれか。

1. ラセーグ徴候陽性
2. 膝蓋腱反射消失
3. アキレス腱反射消失
4. 腓腹筋筋力低下

臨床医学各論

整形外科疾患

キーワード：後縦靭帯骨化症

はき 27-59 脊椎疾患と所見の組み合わせで正しいのはどれか。

1. 頸椎椎間板ヘルニア ————— 間欠跛行
2. 頸椎後縦靭帯骨化症 ————— 膝蓋腱反射の減弱
3. 腰椎椎間板ヘルニア ————— アキレス腱反射の亢進
4. 腰部脊柱管狭窄症 ————— 会陰部のしびれ

はき 19-63 頸部後縦靭帯骨化症について誤っている記述はどれか。

1. 50 歳以上に多い。
2. 原因はカルシウムの過剰摂取である。
3. 進行性の痙性四肢麻痺を起こす。
4. 転倒予防のための生活指導を行う。

はき 2-75 頸椎後縦靭帯骨化症が多くみられる部位はどれか。

1. C1
2. C3
3. C5
4. C7

臨床医学各論

整形外科疾患

キーワード：脊椎分離症

はき 23-64 過度の動作と傷害の組合せで正しいのはどれか。

1. 腰部前屈 ————— 腰部脊椎分離症
2. ジャンプ着地 ————— 膝蓋靭帯炎
3. ボールキック ————— 膝前十字靭帯損傷
4. バットの素振り ————— 手の舟状骨骨折

はき 17-66 脊椎分離症で誤っているのはどれか。

1. 上下関節突起間に起こる。
2. 腰椎下部に好発する。
3. 初期より神経根症状を示す。
4. スポーツ選手に多い。

はき 20-64 脊椎分離すべり症について正しい記述はどれか。

1. 青少年にはみられない疾患である。
2. 胸腰椎移行部に起こる頻度が高い。
3. 上関節突起と下関節突起間に病変がみられる。
4. 腰椎後弯が増強する。

はき 27-59 脊椎疾患と所見の組み合わせで正しいのはどれか。

1. 頸椎椎間板ヘルニア ————— 間欠跛行
2. 頸椎後縦靭帯骨化症 ————— 膝蓋腱反射の減弱
3. 腰椎椎間板ヘルニア ————— アキレス腱反射の亢進
4. 腰部脊柱管狭窄症 ————— 会陰部のしびれ

はき 25-57 脊柱管狭窄を生じるのはどれか。

1. 黄色靭帯肥厚
2. 前縦靭帯骨化
3. 横突起肥大
4. 棘上靭帯骨化

はき 23-63 脊椎・脊髄疾患と身体所見の組合せで正しいのはどれか。

1. 脊髄ショック ————— 痙性麻痺
2. 頸椎捻挫 ————— バレー・リュウ症状
3. L3-L4 椎間板ヘルニア ————— アキレス腱反射の低下
4. 腰部脊柱管狭窄症 ————— 鶏歩

はき 14-74 腰部脊柱管狭窄症について誤っている記述はどれか。

1. 腰椎屈曲位で疼痛が軽減する。
2. 間欠跛行がある。
3. 下肢症状は片側性である。
4. 安静時痛は少ない。

はき 14-75 腰背部痛の原因で生命の危険をきたすのはどれか。

1. 腰部脊柱管狭窄症
2. 子宮内膜症
3. 尿管結石
4. 解離性大動脈瘤

はき 4-83 疾患と症状との組合せで正しいのはどれか。

1. 変形性関節症 — 安静時痛
2. 坐骨神経痛 — 腱反射亢進
3. 脊柱管狭窄症 — 間欠性跛行
4. 胸髄損傷 — 四肢麻痺

臨床医学各論	整形外科疾患	キーワード：頸椎捻挫
--------	--------	------------

はき 24-77 「28歳の女性。上肢の痛み、だるさ、しびれを訴える。上肢下垂時に症状が増悪する。首が長く、姿勢が悪い。モーレイテスト、アドソンテスト陽性。」最も考えられる疾患はどれか。

1. 変形性頸椎症
2. 頸椎椎間板ヘルニア
3. 頸椎捻挫
4. 胸郭出口症候群

はき 23-63 脊椎・脊髄疾患と身体所見の組合せで正しいのはどれか。

1. 脊髄ショック ————— 痙性麻痺
2. 頸椎捻挫 ————— バレー・リュウ症状
3. L3-L4 椎間板ヘルニア ————— アキレス腱反射の低下
4. 腰部脊柱管狭窄症 ————— 鶏歩

臨床医学各論	整形外科疾患	キーワード：脊髄損傷
--------	--------	------------

はき 27-58 脊髄損傷の機能障害評価法で正しいのはどれか。

1. ブルンストロームステージ
2. バーセルインデックス
3. フランケル分類
4. ハミルトン評価尺度

はき 16-77 「20歳の男性。10日前、バイク事故により頸椎を損傷し脊髄損傷となった。上肢下肢に麻痺がある。」この患者で現在みられないのはどれか。

1. 呼吸障害
2. 血圧の変動
3. 消化性潰瘍
4. 異所性骨化

はき 16-78 「20歳の男性。10日前、バイク事故により頸椎を損傷し脊髄損傷となった。上肢下肢に麻痺がある。」この患者の病態管理で適切でないのはどれか。

1. 頸部保護
2. 体温管理
3. 体位変換
4. 持続導尿

はき 5-77 脊髄損傷の合併症とその処置との組合せで誤っているのはどれか。

1. 呼吸麻痺 — 酸素マスク
2. 過高熱 — 副腎皮質ステロイド薬
3. 褥瘡 — 体位変換
4. 尿閉 — 導尿

はき 1-76 第6頸椎脱臼骨折による脊髄損傷患者の初期にみられるのはどれか。

1. 呼吸停止
2. 痙性麻痺
3. 弛緩性麻痺
4. 交代性麻痺

臨床医学各論	整形外科疾患	キーワード：骨折
--------	--------	----------

はき 28-64 次の文で示す症例の病態で正しいのはどれか。

「85歳の女性。左大腿骨頸部骨折の手術を受けた翌日の夜に、ちぐはぐな言動が出現した。」

1. せん妄
2. 認知症
3. うつ病
4. 不安神経症

はき 27-57 骨粗鬆症における骨折危険因子でないのはどれか。

1. 運動
2. 喫煙
3. 糖尿病
4. 副腎皮質ステロイド薬

はき 26-59 骨密度が保たれていても骨折を起こしやすいのはどれか。

1. 糖尿病
2. 高血圧症
3. 脂質異常症
4. 高尿酸血症

はき 25-59 骨粗鬆症患者に好発する骨折はどれか。

1. 鎖骨骨幹部骨折
2. 橈骨近位部骨折
3. 大腿骨近位部骨折
4. 脛骨遠位部骨折

はき 24-65 外傷性肩関節脱臼について正しいのはどれか。

1. 若年者の初回脱臼は反復性に移行しやすい。
2. 高齢者では上腕骨大結節骨折の合併はまれである。
3. 後方脱臼が最も多い。
4. 整復後は可及的早期に可動域訓練を開始する。

はき 23-64 過度の動作と傷害の組合せで正しいのはどれか。

1. 腰部前屈 ————— 腰部脊椎分離症
2. ジャンプ着地 —— 膝蓋靭帯炎
3. ボールキック —— 膝前十字靭帯損傷
4. バットの素振り —— 手の舟状骨骨折

はき 21-61 小児の骨折について正しい記述はどれか。

1. 不全骨折の比率が低い。
2. 骨端線損傷は成長障害の原因にならない。
3. 自家矯正能は旺盛である。
4. 骨癒合が遅い。

はき 21-68 疾患と牽引方法との組合せで正しいのはどれか。

1. 大腿骨骨幹部骨折 ————— 直達牽引
2. 腰椎椎間板ヘルニア —— スピードトラック牽引
3. 大腿骨頸部骨折 ————— 骨盤牽引
4. 筋性斜頸 ————— 頸椎牽引

はき 20-77 「65歳の男性。3週間前に転倒し、前頭部を強打した。その時以後両上肢のしびれ感と歩行困難が出現している。」最も考えられるのはどれか。

1. 頸椎骨折
2. 頸髄中心性損傷
3. 頸髄腫瘍
4. 腕神経叢障害

はき 20-79 「78歳の女性。大腿骨頸部骨折の術後3日間ベッド上安静であったが、突然胸痛、呼吸困難が出現した。胸部単純エックス線写真でうっ血所見はなく、肺野の透過性増大がみられた。血性クレアチニンキナーゼ値は正常、D-ダイマー値上昇が認められた。」本疾患の発症を予測するのに最も有用な検査はどれか。

1. ホルター心電図
2. 負荷心筋シンチグラフィ
3. 頸動脈超音波検査
4. 下肢静脈超音波検査

はき 20-80 「78歳の女性。大腿骨頸部骨折の術後3日間ベッド上安静であったが、突然胸痛、呼吸困難が出現した。胸部単純エックス線写真でうっ血所見はなく、肺野の透過性増大がみられた。血性クレアチニンキナーゼ値は正常、D-ダイマー値上昇が認められた。」本疾患の危険因子として最も重要なのはどれか。

1. 脱水
2. 貧血
3. 運動
4. 徐脈

はき 19-72 ベーチェット病について正しい記述はどれか。

1. 高齢者に多い。
2. 病的骨折がみられる。
3. ブドウ膜炎がみられる。
4. ビタミン B₁₂の不足が原因である。

はき 19-77 「8歳の男子。サッカー中に前方へ転倒、肘をついて倒れた。直後から右肘の疼痛、運動障害があり、次第に腫脹も強くなってきた。明らかな皮膚の外傷はない。」まず、考えるべき病態はどれか。

1. 捻挫
2. 脱臼
3. 疲労骨折
4. 外傷性骨折

はき 19-78 「8歳の男子。サッカー中に前方へ転倒、肘をついて倒れた。直後から右肘の疼痛、運動障害があり、次第に腫脹も強くなってきた。明らかな皮膚の外傷はない。」

発育期に転倒により起こりやすい骨折はどれか。

1. 上腕骨近位端骨折
2. 上腕骨顆上骨折
3. 肘頭骨折
4. コーレス骨折

はき 18-65 高齢者に多い骨折として適切でないのはどれか。

1. 鎖骨骨折
2. 上腕骨近位部骨折
3. 脊椎圧迫骨折
4. 大腿骨頸部骨折

はき 18-66 小児期の上腕骨外顆骨折後、成人になって起こる神経障害はどれか。

1. 腋窩神経麻痺
2. 橈骨神経麻痺
3. 正中神経麻痺
4. 尺骨神経麻痺

はき 17-65 高齢者が起こしやすい骨折はどれか。

1. 鎖骨骨折
2. 上腕骨近位部骨折
3. 上腕骨顆上骨折
4. 上腕骨外顆骨折

はき 16-72 発育期に多いスポーツ障害で適切でないのはどれか。

1. 離断性骨軟骨炎
2. 腰椎分離症
3. 疲労骨折
4. 内反足

はき 13-79 脊髄麻酔で可能な手術はどれか。

1. 脳腫瘍摘出術
2. 甲状腺全摘術
3. 上腕骨骨折骨接合術
4. 虫垂切除術

はき 12-71 高齢者におこりやすい骨折で誤っているのはどれか。

1. 上腕骨顆上骨折
2. 橈骨遠位端骨折
3. 腰椎圧迫骨折
4. 大腿骨頸部骨折

はき 11-72 疾患と症候との組合せで誤っているのはどれか。

1. 脊柱側弯症 — 肋骨隆起
2. 腰椎椎間板ヘルニア — ラセーグ徴候
3. 強直性脊椎炎 — 亀背
4. 頸椎脱臼骨折 — 四肢麻痺

はき 9-86 脊椎麻酔で手術が可能な骨折の部位はどれか。

1. 鎖骨
2. 上腕骨
3. 肋骨
4. 大腿骨

はき 8-81 小児の上腕骨顆上骨折について誤っている記述はどれか。

1. 肘を伸ばして転倒したときに起こる。
2. 筋皮神経が損傷されやすい。
3. 上腕末端部に強い自発痛が生じる。
4. フォルクマン拘縮の予防が必要である。

はき 7-80 スポーツ障害の組合せで誤っているのはどれか。

1. 衝突症候群 — 水泳肩
2. 上腕骨外側上顆炎 — テニス肘
3. 使いすぎ症候群 — 疲労骨折
4. 絞扼性症候群 — 野球肘

はき 4-87 骨折について正しい記述はどれか。

1. 粉碎骨折とは複雑骨折のことである。
2. 骨端部骨折では関節の機能障害を生じやすい。
3. 骨折部位を中心に約 15 c m の副子を当てる。
4. 骨に銅線を刺入して牽引する方法を介達牽引法という。

はき 3-81 大腿骨頸部内側骨折について誤っているのはどれか。

1. 老人に多い。
2. 下肢は外旋位をとる。
3. 骨頭への血行は保たれている。
4. 骨癒合に長時間を要する。

はき 3-82 骨粗鬆症について誤っているものはどれか。

1. 閉経後の女性に発生しやすい。
2. 海綿骨の骨梁が減少する。
3. 腰背部痛の原因となる。
4. 脊椎圧迫骨折があれば手術を行う。

はき 1-76 第 6 頸椎脱臼骨折による脊髄損傷患者の初期にみられるのはどれか。

1. 呼吸停止
2. 痙性麻痺
3. 弛緩性麻痺
4. 交代性麻痺

臨床医学各論 整形外科疾患 キーワード：脱臼

はき 24-65 外傷性肩関節脱臼について正しいのはどれか。

1. 若年者の初回脱臼は反復性に移行しやすい。
2. 高齢者では上腕骨大結節骨折の合併はまれである。
3. 後方脱臼が最も多い。
4. 整復後は可及的早期に可動域訓練を開始する。

はき 20-63 肩関節脱臼で正しいのはどれか。

1. 病的脱臼が多い。
2. 後方脱臼が多い。
3. 腕神経叢麻痺を起こす。
4. 関節強直を起こす。

はき 19-77 「8歳の男子。サッカー中に前方へ転倒、肘をついて倒れた。直後から右肘の疼痛、運動障害があり、次第に腫脹も強くなってきた。明らかな皮膚の外傷はない。」まず、考えるべき病態はどれか。

1. 捻挫
2. 脱臼
3. 疲労骨折
4. 外傷性骨折

はき 11-72 疾患と症候との組合せで誤っているのはどれか。

1. 脊柱側弯症 — 肋骨隆起
2. 腰椎椎間板ヘルニア — ラセーグ徴候
3. 強直性脊椎炎 — 亀背
4. 頸椎脱臼骨折 — 四肢麻痺

はき 11-78 外傷性脱臼について正しい記述はどれか。

1. 整復後直ちに運動を開始する。
2. 頻度の高いのは肩関節である。
3. 腫脹が治まってから整復する。
4. 肘関節脱臼では血管損傷を合併することが多い。

はき 10-80 疾患とその特徴との組合せで正しいのはどれか。

1. 原発性骨粗鬆症 — アルカリフォスファターゼ値の異常
2. 骨肉腫 — 老人に好発
3. 脊椎カリエス — 脊柱の運動制限
4. 股関節脱臼 — 硬性墜落跛行

はき 6-81 外傷性脱臼について正しい記述はどれか。

1. 関節包は破れていない。
2. ばね様固定を認める。
3. 習慣性脱臼と陳旧性脱臼は同じである。
4. 整復後痛みがなければ他動運動を開始する。

はき 2-77 脱臼の症状で誤っているのはどれか。

1. 発赤
2. 疼痛
3. 変形
4. ばね様固定

はき 19-77 「8歳の男子。サッカー中に前方へ転倒、肘をついて倒れた。直後から右肘の疼痛、運動障害があり、次第に腫脹も強くなってきた。明らかな皮膚の外傷はない。」まず、考えるべき病態はどれか。

1. 捻挫
2. 脱臼
3. 疲労骨折
4. 外傷性骨折

はき 26-60 スポーツ中に肉ばなれを起こしやすいのはどれか。

1. 大殿筋
2. 大腰筋
3. 前脛骨筋
4. 腓腹筋

はき 16-72 発育期に多いスポーツ障害で適切でないのはどれか。

1. 離断性骨軟骨炎
2. 腰椎分離症
3. 疲労骨折
4. 内反足

はき 8-84 膝関節のスポーツ外傷で誤っている組合せはどれか。

1. 前十字靭帯損傷 — ラックマンテスト
2. 内側側副靭帯損傷 — 外反動揺性
3. 外側側副靭帯損傷 — 引き出し症状
4. 半月板損傷 — マクマレーテスト

はき 7-80 スポーツ障害の組合せで誤っているのはどれか。

1. 衝突症候群 — 水泳肩
2. 上腕骨外側上顆炎 — テニス肘
3. 使いすぎ症候群 — 疲労骨折
4. 絞扼性症候群 — 野球肘

【上腕骨外側上顆炎】

はき 23-62 筋・腱疾患と運動機能検査の組合せで正しいのはどれか。

1. 胸郭出口症候群 ————— ドロップアームサイン
2. 腱板損傷 ————— ヤーガソンテスト
3. 進行性筋ジストロフィー ——— ガワーズサイン
4. 上腕骨外側上顆炎 ————— ファレンテスト

はき 22-69 疾患と徒手検査との組合せで正しいのはどれか。

1. 上腕骨外側上顆炎 —— チェアテスト
2. 胸郭出口症候群 —— スピードテスト
3. 手根管症候群 —— ライトテスト
4. 腱板炎 —— ファレンテスト

はき 7-80 スポーツ障害の組合せで誤っているのはどれか。

1. 衝突症候群 — 水泳肩
2. 上腕骨外側上顆炎 — テニス肘
3. 使いすぎ症候群 — 疲労骨折
4. 絞扼性症候群 — 野球肘

臨床医学各論	整形外科疾患	キーワード：胸郭出口症候群
--------	--------	---------------

はき 24-77 「28歳の女性。上肢の痛み、だるさ、しびれを訴える。上肢下垂時に症状が増悪する。首が長く、姿勢が悪い。モーレイテスト、アドソンテスト陽性。」最も考えられる疾患はどれか。

1. 変形性頸椎症
2. 頸椎椎間板ヘルニア
3. 頸椎捻挫
4. 胸郭出口症候群

はき 24-78 「28歳の女性。上肢の痛み、だるさ、しびれを訴える。上肢下垂時に症状が増悪する。首が長く、姿勢が悪い。モーレイテスト、アドソンテスト陽性。」本症例で治療対象となる筋はどれか。

1. 小胸筋
2. 斜角筋
3. 胸鎖乳突筋
4. 肩甲挙筋

はき 22-60 徴候と疾患との組合せで正しいのはどれか。

1. ティネル徴候陽性 —— 総腓骨神経麻痺
2. ペインフルアーク徴候陽性 —— 胸郭出口症候群
3. トレンデレンブルグ徴候陽性 —— 腰椎椎間板ヘルニア
4. アリス徴候陽性 —— 変形性膝関節症

はき 22-69 疾患と徒手検査との組合せで正しいのはどれか。

1. 上腕骨外側上顆炎 —— チェアテスト
2. 胸郭出口症候群 —— スピードテスト
3. 手根管症候群 —— ライトテスト
4. 腱板炎 —— ファレンテスト

はき 20-62 胸郭出口症候群で適切な記述はどれか。

1. 高齢者に多い。
2. 前斜角筋による圧迫が原因となる。
3. 動脈は圧迫されない。
4. 上肢帯の筋力は症状と関連しない。

はき 7-79 胸郭出口症候群の診断に有用なテストはどれか。

1. パトリックテスト
2. ライトテスト
3. ヤーガソンテスト
4. ブラガードテスト

臨床医学各論	整形外科疾患	キーワード：手根管症候群
--------	--------	--------------

はき 24-63 徒手検査と疾患の組合せで正しいのはどれか。

1. トムゼンテスト ———— 頸肩腕症候群
2. ライトテスト ———— 肘部管症候群
3. ファレンテスト ———— 手根管症候群
4. ヤーガソンテスト ———— 腱板損傷

はき 22-75 症候群と神経との組合せで正しいのはどれか。

1. 肘部管症候群 ———— 橈骨神経
2. 手根管症候群 ———— 正中神経
3. 梨状筋症候群 ———— 大腿神経
4. 足根管症候群 ———— 総腓骨神経

はき 22-69 疾患と徒手検査との組合せで正しいのはどれか。

1. 上腕骨外側上顆炎 ———— チェアテスト
2. 胸郭出口症候群 ———— スピードテスト
3. 手根管症候群 ———— ライトテスト
4. 腱板炎 ———— ファレンテスト

はき 15-66 手根管症候群で誤っている記述はどれか。

1. 関節リウマチが原因となる。
2. ティネル徴候が陽性となる。
3. ファーレンテストは陽性となる。
4. 神経伝導速度は正常である。

はき 12-81 手根管症候群の原因とならないのはどれか。

1. 妊 娠
2. 甲状腺機能亢進症
3. 関節リウマチ
4. 糖尿病

はき 10-82 手根管症候群について誤っているのはどれか。

1. 正中神経低位麻痺
2. 母指球筋の萎縮
3. 母指の対立運動障害
4. 骨間筋の萎縮

はき 7-72 罹患神経と疾患との組合せで正しいのはどれか。

1. 正中神経 — 手根管症候群
2. 視神経 — ギラン・バレー症候群
3. 動眼神経 — ベル麻痺
4. 腓骨神経 — 梨状筋症候群